

パン用小麦の生産拡大による 儲かる普通作経営体の育成

県西農林事務所坂東地域農業改良普及センター

坂東地域では実需者のニーズに応える高品質なパン用小麦「ゆめかおり」の産地化を推進しています。平成27年設立の「茨城パン小麦栽培研究会^{※1}（22経営体：管内8、管外14）」に対し、各普及センターではSPAD計^{※2}による葉色の調査や、出荷体制の整備を支援してきました。このような取り組みと生産者の熟練した栽培技術により、令和5年に目標の生産量1,000tを達成、令和7年には1,279tまで拡大し、安定供給と生産者の収益性向上が図られています（図1）。

※1 本研究会は坂東市の生産者により設立。現在は9市町（水戸市、古河市、常総市、つくば市、筑西市、坂東市、八千代町、五霞町、境町）の会員で構成され、各管轄の普及センター等が連携して活動を支援しています。

※2 SPAD（スパッド）計：葉に含まれる葉緑素量を測定する機器

データの活用と品質の安定

実需者が求めるパン用小麦のタンパク含量（13.0～14.0%）は、パンの膨らみ等の品質に直結するため、その確保が重要です。そこで普及センターでは、SPAD計による葉色の調査を行い、生育状況を確認する取り組みを支援しています（図2）。生産者の熟練した栽培技術にこのようなデータが組み合わせられ、適切な追肥が実施できた結果、令和7年産も目標を達成しました。品質の安定が実需者との信頼を支え、有利販売の継続に寄与しています。

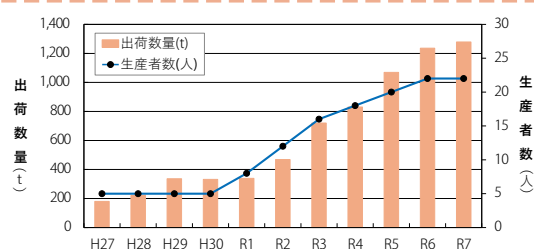


図1 研究会「ゆめかおり」出荷量等の推移



図2 SPAD計の数値を情報提供し生産者が追肥を実施



図3 コンビニエンスストアで販売中の商品

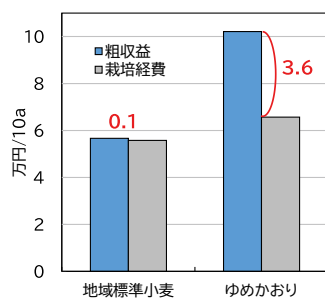


図4 「ゆめかおり」導入効果
（畑地、R5年産）

出荷管理技術の共有と実需者評価の定着

品質基準を満たすため、タンパク含量に応じた出荷ロットの調整を行っています。普及センターでは、この手法を研究会内で共有・継承できるようマニュアル化しました。このような現場での丁寧な取り組みとともに、大手コンビニエンスストアにおいて通年販売が実現するなど、長年にわたる品質維持への取り組みが、実需の確保や経営体の所得向上につながっています（図3、4）。

新技術の試行と栽培改善への取組

研究会では新しい技術についても積極的に検討を行い、栽培管理の工夫を重ねています。その一環として衛星画像による生育把握を試行しているほか、研修会等で事例を共有し、互いの理解を深めています（図5、6）。今後も普及センターでは、新技術に挑戦する研究会の活動を支援し、その成果を会員間で共有・活用することで、栽培改善につながるよう取り組んでいきます。



図5 栽培技術の共有に向けた全体研修会

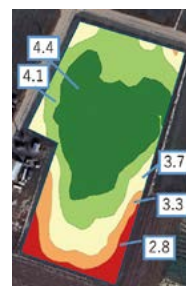


図6 衛星画像による生育マップ